

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

事業報告書

第 8 卷

令和 3 年度

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

巻 頭 言

新型コロナウイルスへの対応が長期化するなか、第一線で奮闘されている医療従事者の皆さまに対し、心から感謝いたします。

全国でオミクロン株による感染が拡がり、今や「第6波」の渦中にあります。石川県は、3月21日をもって「まん延防止等重点措置」を終了しますが、まだまだ陽性者数が減らない状況にあります。一度、医療が崩壊すると重症患者だけでなく、その他の疾患で治療を必要としている人たちの命も救えなくなります。最近では、オミクロン株よりさらに感染力が強いとされる変異株への置き換わりが懸念されています。命と健康、日常生活を守るためには、引き続き感染対策の徹底が必要です。

令和3年度「感染管理認定看護師教育課程」は44名の修了生を輩出しました。石川県からの要請を受け、感染管理の専門的看護実践能力を身につけ、感染防止対策の中心的な役割を担うことができる看護師の育成を目的に、看護実践力向上研修「感染管理看護」を新たに実施しました。次年度は「保健所職員向け感染症研修」を開講予定です。これからも看護キャリア支援センターは、石川県と連携しながら社会のニーズに対応した、看護職の看護キャリア形成の支援をしてゆきます。

またコロナ禍にある今こそ、医療・介護現場における看護管理者のトップマネジメント力量が大いに問われています。北陸3県の多くの看護管理者からの要望もあり「認定看護管理者(サードレベル)教育課程」開講も次年度2年目を予定しています

看護キャリア支援センターは、今年度の知恵と経験を活かして次年度も教育課程を進めてゆく所存です。

石川県立看護大学
附属看護キャリア支援センター長
林 一 美

目 次

(ページ)

I. 感染管理認定看護師教育課程	1-7
1. 目的	1
2. 実施状況	1
3. 実施内容	2
4. 評価	5
5. 今後の課題	6
II. 認定看護管理者教育課程サードレベル	8-13
1. 教育目的・到達目標	8
2. 実施状況	8
3. 実施内容	8
4. 評価および今後の課題	11
III. 認定看護師教育課程フォローアップ研修	14-15
IV. 専門的看護実践力研修事業「看護管理者経営研修」	16-18
1. 目的	16
2. 定員および研修方法	16
3. 実施状況	16
4. 実施内容	16
5. 評価および今後の課題	17
V. 専門的看護実践力研修事業（分野別実践看護師養成研修）「皮膚・排泄ケア」	19-22
1. 目的・目標	19
2. 実施状況	19
3. 実施内容	19
4. 評価	20
VI. 感染管理看護実践力向上研修	23-26
1. 目的・目標	23
2. 実施状況	23
3. 実施内容	23
4. 評価	25
VII. 石川県看護教員現任研修	27-29
1. 目的・目標	27
2. 実施状況	27
3. 実施内容	27
4. 評価	29
5. 今後の課題	29
VIII. 地域貢献	30
1. 各機関からの依頼による派遣事業	

I. 感染管理認定看護師教育課程

1. 目的

- 1) 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、専門的知識と高度な技術に基づいて医療関連感染の予防と管理を実践できる能力を育成する。
- 2) 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、医療関連感染の予防と管理について指導できる能力を育成する。
- 3) 医療関連感染の予防と管理について、医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族からの相談に対応し、問題解決に向けた支援ができる能力を育成する。

2. 実施状況

【期間】

令和3年7月1日（木）～ 令和4年2月4日（金）

【履修生の背景】

- 1) 基本属性（表1）

表1.

履修生数		44名
男女別		男性15名 女性29名
平均年齢・標準偏差		39.9歳
所属施設の 所在地 (入学前)	石川県内	19名
	石川県外	25名 富山県 3名 福井県 3名 山形県 1名 新潟県 2名 長野県 3名 愛知県 3名 滋賀県 2名 三重県 2名 京都府 1名 奈良県 1名 大阪府 2名 香川県 1名 岡山県 1名
所属機関別（入学時）		病院 42名 県感染制御ネットワーク 1名 訪問看護ステーション 1名

- 2) 入学時の臨床経験年数と感染管理に関する実務経験年数（表2）

表2.

経験 経験年数	看護経験	経験 経験年数	感染に関する 実務経験
5～9	10人	3～4	19人
10～14	22人	5～9	22人
15～19	13人	10～14	3人
20～24	4人		
25～25	5人		
平均経験年数	15.2年	平均経験年数	5.7年

3. 実施内容

【教育課程の実施状況】

感染管理認定看護師教育課程の年間スケジュールは表3に示す。

【カリキュラム】

認定看護師教育課程のカリキュラムは、認定看護師の水準を均質にするため、公益社団法人日本看護協会が定める教育基準カリキュラムに則って構成されている。日本看護協会が定めた認定看護師教育基準カリキュラムは、各分野に共通している「共通科目」と各分野の専門的知識を学ぶ「専門基礎科目」と「専門科目」、「学内演習及び臨地実習」に分かれている。修了要件は、「共通科目」「専門基礎科目」「専門科目」「学内演習及び臨地実習」のすべての授業科目を履修し、かつ修了試験に合格することである。授業科目及び時間数を表4に示す。

表3. 年間スケジュール

項 目	期 間
開講式 (オリエンテーション)	7月 2日 (金) zoom 7月 1日 (木) zoom
授業開始	7月 5日 (月) ~
夏季休業	8月 13日 (金) ~ 8月 15日 (日)
実習期間	10月 25日 (月) ~ 11月 26日 (金)
冬季休業	12月 29日 (水) ~ 1月 3日 (月)
修了試験	1月 12日 (水)
修了式	2月 4日 (金)

表4. 授業科目と時間数

授 業 科 目		時 間 数
共通科目	1. 医療安全学：医療倫理	15
	2. 医療安全学：医療安全管理	15
	3. 医療安全学：看護管理	15
	4. 臨床薬理学：薬理作用	15
	5. チーム医療論（特定行為実践）	15
	6. 相談（特定行為実践）	15
	7. 指導	15
	8. 医療情報論	15
専門基礎科目	1. 感染管理学	15
	2. 疫学と統計学	30
	3. 微生物学	15
	4. 感染症学概論	15
	5. 感染症学各論	30
	6. 医療管理学	15
専門科目	1. 医療関連感染サーベイランス概論	15
	2. 医療関連感染サーベイランス各論	30
	3. 感染防止技術	30
	4. 職業感染管理	15
	5. 感染管理指導と相談	15
	6. 洗浄・消毒・滅菌とファシリティ・マネジメント	15
学内演習	90	270
臨地実習	180	
総時間数		630

【担当教員】

主任教員：池田富三香（特任准教授）

担当科目：医療安全学：医療倫理

専任教員：江波 麻貴（特任講師）

担当科目：看護管理、チーム医療論、相談（特定行為実践）、感染管理学、
医療関連サーベイランス概論・各論、感染防止技術、職業感染管理、
感染管理指導と相談、洗浄・消毒・滅菌とファシリティ・マネジメント、
学内演習、臨地実習

専任教員：北川 洋子（特任講師）

担当科目：チーム医療論、相談（特定行為実践）、感染管理学、
医療関連サーベイランス概論・各論、感染防止技術、職業感染管理、
感染管理指導と相談、学内演習、臨地実習

専任教員：藤本 淑子（臨時講師） 担当科目：臨地実習

【非常勤講師】

専門基礎科目、専門科目は感染管理分野における第一線の感染症専門医、各専門医分野の大学の教授・准教授・講師、各専門医分野の医師や看護師、感染管理認定看護師の方々に非常勤講師として講義・演習等を担当していただいた。非常勤講師と担当科目一覧を表5に示す。

表 5-1. 非常勤講師・担当科目

講師名	所属	担当科目
浅見 洋	石川県立看護大学	医療安全学：医療倫理
鷺尾 美智代	独立行政法人国立病院機構医王病院	医療安全学：医療安全管理
寺井 梨恵子	石川県立看護大学	医療安全学：医療安全管理
中村 隆	中村・平井・田邊法律事務所	医療安全学：医療安全管理
山崎 真由美	金沢大学附属病院医療安全管理部	医療安全学：医療安全管理
丸岡 直子	石川県立看護大学	医療安全学：看護管理
多賀 允俊	金沢医科大学病院感染制御室	臨床薬理学：薬理作用
池田 浩幸	石川勤労者医療協会城北病院	臨床薬理学：薬理作用
阪上 学	国立病院機構 金沢医療センター	臨床薬理学：薬理作用
藤村 政樹	国立病院機構 七尾病院	臨床薬理学：薬理作用
林 一美	石川県立看護大学	チーム医療論（特定行為実践）
細田 清美	福井済生会病院	チーム医療論（特定行為実践）
武山 雅志	石川県立看護大学	相談（特定行為実践）
石川 倫子	石川県立看護大学	指導
平居 貴生	石川県立看護大学	医療情報論 学内演習
稲垣 時子	国立がん研究センター東病院	医療情報論
吉村 光弘	公立能登総合病院	医療情報論
竹村 美和	滋賀医科大学医学部附属病院感染制御部	感染管理学
藤田 烈	国際医療福祉大学未来研究支援センター	疫学と統計学
今井 秀樹	石川県立看護大学	疫学と統計学
新川 晶子	石川県立高松病院	微生物学 サーベイランス各論

表 5-2. 非常勤講師・担当科目

講師名	所属	担当科目
所 正治	金沢大学医薬保健研究域医学部 寄生虫感染症制御学	微生物
松村 康史	京都大学大学院医学研究科 臨床病態検査学	微生物 感染症学各論
坂井 優喜子	金沢大学附属病院	微生物
金谷 和美	金沢医科大学病院中央臨床検査部	微生物
飯沼 由嗣	金沢医科大学	感染症学概論 感染症学各論
渡邊 珠代	石川県立中央病院 免疫感染科	感染症学概論 感染症学各論
田中 達朗	金沢医科大学 泌尿器科学	感染症学各論
西 耕一	石川県立中央病院 呼吸器内科	感染症学各論
森岡 浩一	福井大学医学部附属病院	感染症学各論
中積 泰人	金沢メディカルステーション	感染症学各論
土島 睦	金沢医科大学	感染症学各論
笹川 寿之	金沢医科大学	感染症学各論
宮川 須美子	東海北陸厚生局石川事務所	医療管理学
松原 隆夫	石川県能登中部保健福祉センター	医療管理学
中村 真寿美	金沢医科大学病院	医療管理学
高山 一夫	京都橘大学	医療管理学
野田 洋子	金沢医科大学病院感染制御部	医療管理学
青木 雅子	富山大学附属病院 感染制御室	医療関連感染サーベイランス各論
森兼 啓太	山形大学医学部附属病院	医療関連感染サーベイランス各論
中川 佳子	金沢医科大学病院	医療関連感染サーベイランス各論
梅田 加洋子	真正会富山病院	感染防止技術
上島 雅子	浅ノ川総合病院 地域連携室	感染防止技術
鍛冶 佳美	JCHO 金沢病院	感染防止技術
浦嶋 ひとみ	石川県済生会金沢病院	感染防止技術
西村 一美	福井大学医学部附属病院	感染防止技術
近藤 祐子	石川県立中央病院	感染防止技術
赤尾 康子	加賀市医療センター	感染防止技術
清水 直美	富山県立中央病院 医療安全部感染対策室	感染防止技術
森河 裕子	金沢医科大学看護学部	職業感染管理
中川かつ枝	国立病院機構七尾病院	職業感染管理
嶋田 由美子	公立つるぎ病院	感染管理指導と相談
池田 恵子	城北病院 医療安全管理室	洗浄・消毒・滅菌とファシリティマネジメント
垣花 渉	石川県立看護大学	学内演習
小林 宏光	石川県立看護大学	学内演習
今井 美和	石川県立看護大学	微生物検査演習
片山 雪絵	浅ノ川総合病院	微生物検査演習
村 竜輝	金沢医科大学病院	微生物検査演習
片山 雪絵	浅ノ川総合病院	微生物検査演習

【臨地実習施設】

令和3年度は、履修生が44名と増加、実習施設は昨年より5施設新たに協力依頼、19施設で実習を行った。看護実践実習施設および実習指導者は表6に示す。

表6. 看護実践実習施設と実習指導者

No	施設名	実習指導者
1	富山大学附属病院	青木 雅子
2	富山赤十字病院	亀山 礼子
3	富山県立中央病院	清水 直美
4	市立砺波総合病院	村本 由子
5	公立能登総合病院	澤田 明美
6	国立病院機構七尾病院	中川かつ枝
7	社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院	谷田部 美千代
8	金沢医科大学病院	野田 洋子
9	医療法人社団浅ノ川総合病院	上島 雅子
10	地域医療機能推進機構金沢病院	岩島 さやか
11	国立病院機構金沢医療センター	西原 寿代
12	金沢大学附属病院	中村 洋子
13	金沢市立病院	奥野 由美
14	医療法人社団浅野ノ川金沢脳神経外科病院	辻田 里美
15	白山石川医療企業団公立松任石川中央病院	河奥 辰徳
16	医療法人社団和楽仁芳珠記念病院	小谷口 みさき
17	白山石川医療企業団公立つるぎ病院	嶋田 由美子
18	国民健康保険小松市民病院	米多 弘子
19	福井赤十字病院	坪田 マキ

4. 評価

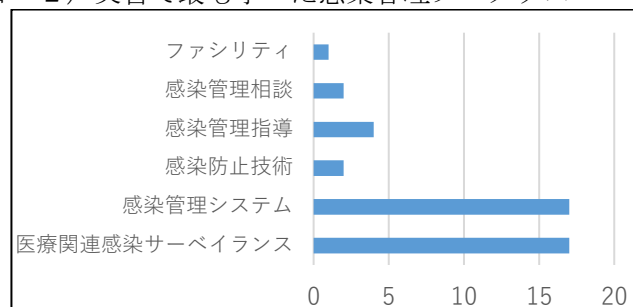
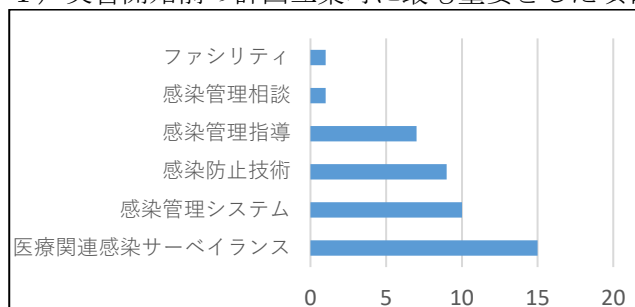
【履修状況に関する評価】

講義・演習・実習においては、履修生全員が科目認定された。その上で修了試験を受け、全員が合格し、本教育課程の修了を認定された。修了生44名は、2022年10月に行われる認定看護師認定審査を受ける予定である。

履修生は教育課程において多くの学びを得て、臨地実習においてその学びから、自施設での感染管理の実践へと活用できるよう感染管理プログラムを立案した。実習での学びや意見については、アンケートを実施して把握した。

【履修生の学んだ内容（一部抜粋）】

1) 実習開始前の計画立案時に最も重要とした項目 2) 実習で最も学べた感染管理プログラム



2) アンケート内容

(1) サーベイランス

- ・伝わりやすいフィードバックの方法や見てもらえる資料の作成方法を学べた。
- ・自施設へ戻った後も、少しの修正で早い段階から導入できると考えている。
- ・サーベイランスはただデータを集めるのではなく改善するためにどのような目的で集めるのかを理解した。
- ・導入までには、しっかりとした準備が必要であると理解した。

(2) システム

- ・自施設にはない ICT や看護部感染対策委員会等の連携や役割、活動を学ぶことができた。
- ・組織内の感染管理室の立ち位置と CNIC の役割と働きについて、実習で一緒に行動させていただいたことで現実的にイメージすることができた。
- ・兼任という立場の限られた時間でどうやって活動時間を確保していくかが重要。
- ・リンクナースの役割と責任感を持つ取り組みについて学ぶことができた。
- ・CNIC として、感染管理に責任を持ち、情熱を持ち、熱心な丁寧な活動に感銘を受けた。
- ・リンクナースへの教育の方法、活動を促す仕組みづくりについて学ぶことができた。

(3) 指導

- ・指導の際は、一方的に教えるのではなく、対象者が感染管理に興味を持ち参加できるよう対象者のニーズや、学習意欲等も考慮する必要があることを学んだ。
- ・実際に指導を行うことで、指導計画の作成や教材の選択により、学びに繋がることが理解できた。
- ・自施設へ戻った後も、少しの修正で早い段階から導入できると考えている。

(4) 今後への活用

- ・自施設でも ICT を立ち上げシステムの強化を図ろうと思っている。
- ・リンクナースのモチベーション向上、効果的な感染対策につなげたい。
- ・感染管理に責任を持つ。情熱を持つ。
- ・サーベイランスではポジティブフィードバックを自施設でも取り入れる。
- ・サーベイランスのデータ収集の目的を具体的にすることから実施する。
- ・自施設でのサーベイランス導入時に、準備や検討事項に活かしていく。
- ・指導のねらいを明確にする事で、短時間の指導時間でも工夫する事。
- ・相談内容には慎重に、その場で解決を急がずにガイドラインを確認し、責任をもって返答することを繰り返し自分のものとしていく。
- ・手指衛生遵守やケアバンドルをふまえたプロセスサーベランスにも取り組んでいきたい。
- ・患者・職員・施設外の方への熱心な丁寧な活動を実践する。

5. 今後の課題

昨年度に続き、今年度もコロナ禍の影響により、開講式は遠隔会議システム（zoom）によるオンラインで実施した（図 1）。また、開講より 2 週間は（zoom）を使用し、講義やグループワークなどを行った。7 月 19 日より対面授業が開始できたが、感染状況に応じて、適宜オンラインを活用しての授業となった。令和 4 年 2 月 4 日の修了式は、新型コロナウイルスの第 6 波の影響で（zoom）により実施した（図 2）。

次年度もコロナ禍の影響を考慮し、開講前に履修生の ICT 環境を調査し、支援を行っていききたい。

臨地実習に関して、新型コロナウイルスの感染状況がおちついている時期と重なり、県外施設での実習も含め、感染予防対策に十分留意し、実習施設での経験を積む事ができた。次年度も実習開始日は今年度の日程で行っていく。

今年度は、入学前の事前課題内容（施設の現状把握のための情報収集項目）を検討し、入学前までの課題としたが、提出物からは自施設の現状について情報収集はされてきていたが、課題の理解が不十分であり、何が問題であるかの認識にまで結びつけることができていない状況であった。講義、実習を通し、自施設で実践できる感染管理プログラム作成という目標は達成できたが、具体性に欠ける部分も見受けられた。次年度は、感染管理プログラム作成において、個別対応を充実させ指導に臨んでいく必要がある。



7月2日 開講式 (図1)



2月4日 修了式 (図2)

Ⅱ. 認定看護管理者教育課程サードレベル

1. 教育目的・到達目標

【教育目的】

多様なヘルスケアニーズをもつ個人、家族、地域住民及び社会に対して、質の高い組織的看護サービスを提供するために必要な知識・技術・態度を習得する。

【到達目標】

- 1) 保健医療福祉の政策動向を理解し、それらが看護管理に与える影響を考えることができる。
- 2) 社会が求めるヘルスケアサービスを提供するために、看護現場の現状を分析し、データ化して提示することができる。
- 3) 経営管理の視点に立ったマネジメントが展開できる。

2. 実施状況

【教育期間】

I期：令和3年10月20日（水）～11月12日（金）

II期：令和3年11月22日（月）～12月2日（木）

III期：令和3年12月13日（月）～12月22日（水）

修了式：令和4年2月4日（金）

【履修生数】 28名

【履修生の背景】

1) 基本属性

性別	女性 28名
平均年齢	54歳
所属施設の所在地	
石川県	14名
富山県	11名
福井県	3名

2) 履修生の職位

看護部長	3名
副看護部長	17名
看護部長・副看護部長以外	8名

3. 実施内容

【カリキュラム】

認定看護管理者教育課程サードレベルのカリキュラムは、公益社団法人日本看護協会が定める『認定看護管理者カリキュラム基準に関する規定』に則って構成されている。日本看護協会が定めた認定看護師教育基準カリキュラムは「ヘルスケアシステム論Ⅲ」、「組織管理論Ⅲ」、「人材管理Ⅲ」、「資源管理Ⅲ」、「質管理Ⅲ」、「統合演習Ⅲ」であり、修了要件は、すべての教科目に合格することである。授業科目及び授業時間数を表1に示す。

表 1-1. 授業科目、単元及び時間数

授業科目	時間	単元
ヘルスケアシステム論Ⅲ	30	1) 社会保障制度・政策の動向 2) 看護制度・政策の動向 3) ヘルスケアサービスの創造
組織管理論Ⅲ	30	1) 組織デザインと組織運営 2) 組織における倫理

表 1-2. 授業科目、単元及び時間数

授業科目	時間	単 元
人材管理Ⅲ	15	1) 社会システムと労務管理 2) 看護管理者の育成
資源管理Ⅲ	30	1) 経営戦略 2) 財務管理 3) 組織的情報管理
質管理Ⅲ	30	1) 経営と質管理 2) 組織の安全管理
統合演習Ⅲ	45	1) 演習 2) 実習
合 計	180	

【担当教員】

出口まり子
池田富三香

【非常勤講師】

非常勤講師と担当科目一覧を表 2 に示す。

表 2-1. 非常勤講師および担当科目

教科目	単元	教育内容	時間	講師名	所属
ヘルスケアシステム論Ⅲ 30	1) 社会保障制度・政策の動向	・社会保障の将来ビジョン	3	岡野 大輔	金城大学 社会福祉学部 講師
		・グローバルな視点から見た保健医療福祉 ・WHO の活動、国連 SDGs 等 (国連 SDGs)	3	米山 芳春	独立行政法人国際協力機構 北陸センター (JICA Hokuriku) 所長
	2) 看護制度・政策の動向	・看護制度の変遷と政策 ・看護政策に関する審議会・検討会 ・制度変化に伴う看護管理への影響と対応 ・看護戦略とパワーの活用 ・職能団体による政策への影響力	6	小藤 幹恵	石川県看護協会 会長
	3) ヘルスケアサービスの創造	・ヘルスケアサービスのマーケティング ・社会的企業(ソーシャルエンタープライズ) ・NGO、NPO のヘルスケアサービス	6	高山 一夫	京都橘大学 経済学部長
		・地域連携を基盤としたヘルスケアサービス	3	大田 章子	社会医療法人祥和会 脳神経センター大田記念病院
		・在宅におけるヘルスケアサービス	3	榊原 千秋	コミュニティスペースややの家
		・ヘルスケアサービスのシステム構築 ・看護事業の開発と起業 ・テクノロジーの活用	6	川添 高志	ケアプロ株式会社 代表取締役

表 2-2. 非常勤講師および担当科目

教科目	単元	教育内容	時間	講師名	所属
組織管理論Ⅲ 30	1) 組織デザインと組織運営	・組織デザイン ・組織間ネットワークのデザイン	9 3	藤田 恵子 石川 倫子	国立病院機構石川病院 看護部長 石川県立看護大学 准教授
		・地域連携ネットワークのデザイン ・ダイバーシティ	3	澤味小百合	公立能登総合病院 副院長・看護部長
		・組織運営に必要な能力 ・経営者に求められる役割と必要な能力	3 3	渡邊 真紀 中村真寿美	金沢大学附属病院 看護部長 金沢医科大学 副院長・看護部長
		・組織戦略とパワーの活用 ・経営者としての成長と熟練	3	西村 路子	滋賀県看護協会
	2) 組織における倫理	・組織における倫理的課題 ・倫理的課題に対する組織的対応	6	吉田 千文	常磐大学 特任教授
人材管理Ⅲ 15	1) 社会システムと労務管理	・賃金制度 ・人事考課 ・能力評価のためのシステムの構築	3	中村真寿美	金沢医科大学病院 副院長・看護部長
		・労働関係法規の最新の動向 ・建設的な労使関係の構築	3	越中のりこ	国立病院機構医王病院 看護部長
		・人材フローのマネジメント	3	成瀬 美恵	国立病院機構金沢医療センター 看護部長
		・ハラスメントの組織的対応	3	安田 忍	特定医療法人社団勝木会やわたメディカルセンター 看護部長
	2) 看護管理者の育成	・看護管理者の能力開発、活用	3	丸岡 直子	石川県立看護大学 特任教授
資源管理Ⅲ 30	1) 経営戦略	・医療経営の特徴と課題	3	吉村 光弘	公立能登総合病院 事業管理者
		・医療施設、介護福祉施設、訪問看護ステーション等の経営の特徴と課題 ・戦略策定	3	仲井 培雄	医療法人社団和楽仁芳珠記念病院 理事長
			3	野村 仁美	JCHO山手メディカルセンター 看護部長
			3	濱中 洋平	株式会社日本経営 NKアカデミー 事業 統括マネージャー
			3	大日方光明	株式会社日本経営 介護福祉コンサル テイング部 参事
	2) 財務管理	・財務会計 ・管理会計 ・資金管理	9	阿部 究	医療法人社団和楽仁芳珠記念病院 事務局長
3) 組織的情報管理	・関連法規の遵守 ・地域における情報共有・活用	3	稲垣 時子	公立能登総合病院 診療情報管理室	
		3	吉村 光弘	公立能登総合病院 事業管理者	
質管理Ⅲ 30	1) 経営と質管理	・ガバナンスとアカウンタビリティ	3	石垣 和子	石川県立看護大学 学長
		・医療・看護の質とデータ活用	6 3	中西 容子 西村 路子	金沢市立病院 看護部長 滋賀県看護協会
		・第三者評価	3	渡邊 真紀	金沢大学附属病院 看護部長
質管理Ⅲ 30	2) 組織の安全管理	・安全文化の醸成 ・医療事故防止のための組織的対策	3 3	江藤真由美 野上 悦子	石川県立中央病院 看護部長 金城大学 看護学部 教授
		・危機管理	3 3	飯沼 由嗣 阪上 学	金沢医科大学病院 教授 国立病院機構金沢医療センター 副院長
			3	田邊 昇	中村・平井・田邊法律事務所 弁護士・医師

表 2-3. 非常勤講師および担当科目

教科目	単元	教育内容	時間	講師名	所属
統合演習Ⅲ 45	1) 演習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を踏まえ、受講者自身が演習内容を企画し実施する。 例 1: 自組織について分析し、組織の改善計画を立案する。またはトップとして組織を分析し改善計画を立案する。 例 2: 保健医療福祉に関する統計データを分析し、保健医療福祉サービス提供体制の改革ビジョンを策定する 例 3: 保健医療福祉に関する政策提言を行う 	18	中村真寿美 大西真奈美 三井 昌栄 山下 美子 坂本 和美 中田 晴美 岡山 容美 小川外志江 出口まり子 池田富三香	金沢医科大学病院 副院長・看護部長 医療法人社団和楽仁芳珠記念病院 看護部長 公立松任石川中央病院 看護部長 石川県立高松病院 看護部長 金沢市立病院 副看護部長 小松市民病院 副看護部長 国立病院機構金沢医療センター 副看護部長 金沢大学附属病院 副看護部長 小松市民病院 石川県立看護大学
	2) 実習	<ul style="list-style-type: none"> ・経営の実際を学ぶための実習を受講者自身が企画し実施する。 シャドウイング等 	15	池田富三香 出口まり子	石川県立看護大学 小松市民病院
合計時間			180時間		
特別講義	レポートの書き方		3	石川 倫子	石川県立看護大学 准教授

【教育課程の実施状況】

年間スケジュールを表 3 に示す。

表 3. 年間スケジュール

日 程	実施内容
10月 20日	開講式
10月～12月	講義・演習
12月 2日	臨地実習
2月 4日	修了式

4. 評価および今後の課題

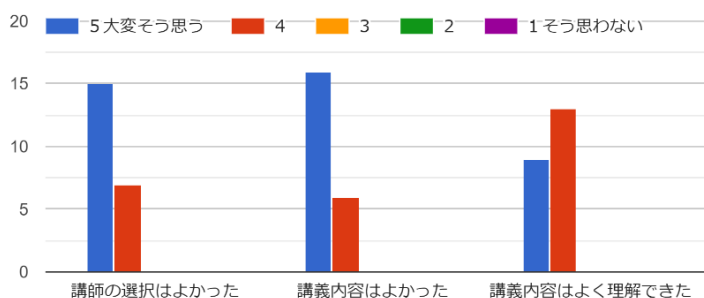
【履修状況に関する評価】

講義・演習について、履修生全員が科目認定され、全員が本教育課程を修了した。修了生 28 名は令和 4 年 10 月に行われる第 26 回認定看護管理者認定審査を受ける予定である。

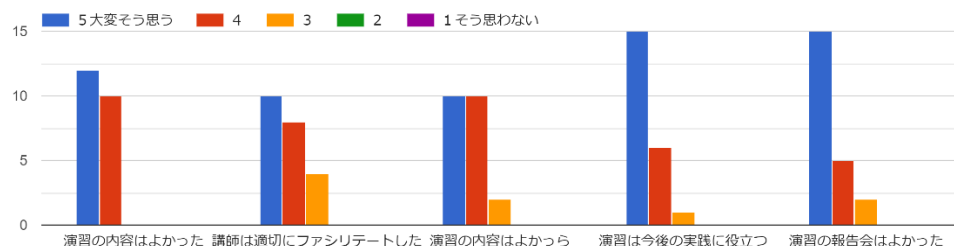
新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、開講式および修了式はオンラインで実施した。幸いにも講義・演習の期間中は感染の状況が比較のおちついた時期となり、一部 zoom によるオンライン授業を行ったが、演習はすべて対面で実施できた。実習は感染の状況を鑑みて、実習施設を北陸 3 県内に限定して実施した。

履修生の本教育課程に対する評価は以下のとおりである。

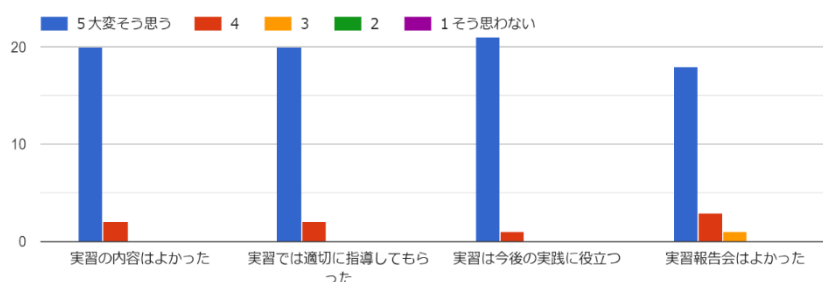
1) 講義について



2) 演習について



3) 実習について



4) 研修全体への意見 (自由記載)

〈管理者としての重要な学びを活かしてトプマネジャーとして役割を果たす〉

- ・トプマネジャーとしての役割や必要な能力について考え、学びを得ることができた。また、課題解決に向け、周囲を巻き込みながら実践していきたいと強く感じた。
- ・セカンドとは違い、経営と看護の質やトプマネジャーとしての課題解決に向けた戦略を理解し、実践に結び付けていく重要性が理解できた。今後の看護部体制の再構築に向けて、取り組んでいきたい。

〈自分自身を振り返り成長させる〉

- ・この研修は管理者にとってとても必要なものであり、今後滞ることなく管理者を研修に参加させたい。
- ・研修を受講し、今までの自分を振り返り、いろんな立場の受講生と意見交換し講師の先生方に指導していただいたことで、自分の視野が狭いことを自覚した。特に組織改善計画では、頭の中が混乱したが、少しずつ自分のやりたいことが見えてきたように思う。

〈グループワークを通して学びが深まり、出会った仲間とのつながりを築く〉

- ・研修中グループワークで学びあえることが、一体感が深まりとてもよかったと思う。
- ・履修生皆さんと知り合えてとても貴重で楽しい時間を過ごせた。互いの病院の取り組みを話したり、取り入れられることを考えたり、とても有意義な時間だった。

〈ICTの活用など新しい学習環境・方法への適応〉

- ・オリエンテーションで Moodle の使い方や、インターネット接続など丁寧に説明頂いたことで、緊張感や不安感が和らいだ。
- ・演習のグループ課題を考えるのに、zoom やメールを使用して行えたことはよかった。

〈学習環境が整っている〉

- ・感染対策も、手指消毒やアルコール清拭など十分に使用させて頂き安心して受講できた。
- ・文章構成の考え方や、管理者としての考え方などたくさんの方を教えていただいた。
- ・全体のカリキュラムは、最初の小論文を最後の組織改善計画として具体化できるように、プロセスを考えた構成になっている。ひとつ講義を受けるごとに、組織改善計画が充実するヒントをもらっていた。

5) 研修への要望（自由記載）

- ・今後もずっと、サードレベルをはじめ、各分野の認定看護師教育を行ってほしい。
- ・開催時期は最低でももう1ヶ月早めが良い。（北陸なので、降雪のない時期にして欲しかった）
- ・時期に関しては、北陸の雪を考えるとこの時期に終了で良かった
- ・講義は、時々グループワークがあったのは良かったが、講師と研修生の相互性がもう少しあれば、理解が深まる内容もあった。（講師が話したいことだけ話す講義だと、内容が入ってこない）
- ・政策提言についての最初の講義内容が十分理解できず、どのように進めていけばよいか悩んだ。講義時間が少しあるとよい。

【全体的評価と今後の課題】

認定看護管理者（サードレベル）教育課程は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、昨年度は休講となった。休講になった間に、オンラインによる授業の方法や工夫を構築し今年度第4期生28名を迎えて開講することができた。2年間の休講期間があったためか、北陸3県より36名の応募があった。地域包括ケアシステムを構築していく上で、地域連携の強化、組織変革のリーダーシップを担う看護管理者の育成には、院内から地域内へと看護管理者として視点を拡大していくことが重要である。そのためにも病院だけでなく訪問看護ステーションや老人保健施設等の看護管理者へ参加を働きかけていく。

講義や演習については、履修生の意見をもとに講師と調整しながらより学びが深まるよう工夫する。開催時期は、認定看護師教育課程の授業の進行の状況にあわせ、年内に終了できるよう工夫しながら調整する。

今年度受講できなかった者を含め、ニーズを鑑みて、次年度も開講する。



12月22日 自施設組織改善計画発表会



2月4日 修了式

Ⅲ. 認定看護師教育課程フォローアップ研修

1. 目的・目標

【目的・目標】

認定看護師としての役割を果たし、次世代を担う人材を育成する

【テーマ】

with コロナ時代、期待される認定看護師の役割 ～次世代に繋ぐ人材育成アプローチ～

2. 日時・参加者

【日 時】令和3年10月23日(土) 14:00～17:00

【参加者数】145名（認知症看護認定看護師 87名、感染管理認定看護師 58名）

3. 実施内容

第1部 認知症看護と感染管理合同研修

講演：認定看護師としての役割を果たし、次世代を担う人材を育成する

講師：佐藤 朋子（国立国際医療研究センター 看護部長）

座長：石川 倫子（石川県立看護大学 准教授）

第2部 認知症看護・感染管理それぞれの分野に分かれて研修

【感染管理認定看護師の部】

テーマ：各施設における新型コロナウイルス感染症対策

座長：高原、浅川

シンポジスト：

○太田 律子（1期生 能美市立病院）

○重面 由香（2期生 一般社団法人 愛生会山科病院）

○奥野 由美（3期生 金沢市立病院）

【認知症看護認定看護師の部】

テーマ：コロナ禍の今、あきらめない認知症看護

座長：長谷 美紗季、蓮野 祐子（3期生）

シンポジスト：

○芹田 卓征（3期生 JCHO 秋田病院）

－認知症看護認定看護師の活動を通しての学びと自施設における今後の課題－

○川倉 康之（3期生 富山市立富山市民病院）

－認知症看護認定看護師の初年度実践報告－

○山村 延啓（2期生 医療法人医仁会さくら総合病院）

－入院中の抗認知症薬を使用していない認知症者に対する認知症看護認定看護師の役割－

○森 舞（1期生 徳島県立三好病院）

－軽症から重症コロナ患者を受け入れている病院のコロナ病棟における認知症看護の取り組み－

○山田 士郎（1期生 独立行政法人国立病院機構北陸病院）

－せん妄教育の課題 整形外科病棟での認知症ケアチームの活動を振り返る－

4. 評価

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、昨年度は実施できなかったため2年ぶりの開催となった。今年度は附属看護キャリア支援センターとしてのフォローアップ研修として、認知症看護と感染管理のコース合同で、オンラインによる研修会を実施した。それぞれのコースの修了生代表が集まり、研修内容を検討した。

第1部の講義は、どちらのコースにも共通の課題である人材育成をテーマとしたため、参加者全員が興味深く聞くことができた。第2部は教育課程別に分かれてのシンポジウムで、コロナ禍における実践についてそれぞれの活動を報告した。コロナ禍で多くの苦難を乗り越え、今もなお対応してく仲間の報告を聞き、ともに学ぶことで、これからの実践への大きな活力となった。

コロナ禍のため、オンラインによる研修会となったが、「オンラインなので参加しやすい」「遠方の人も気軽に参加できる」などオンラインによる研修の良さを実感した意見が多くあった。

今後もオンラインによる研修の良さを活かし、教育課程の修了生の代表者で意見交換しながら多くの履修生が参加しやすい研修を企画したい。

5. 今後の課題

開催においては、各期の修了生の代表で研修内容を企画し、修了生のニーズに沿った研修を企画していく。

認知症看護認定看護師教育課程は修了して3年間開講していない。また感染看護認定看護師教育課程も次年度開講後は一旦休講となる予定である。教育課程の修了生の数も増加しているため、開講がない期間のフォローアップ研修の方向性を検討する必要がある。

IV. 専門的看護実践力研修事業「看護管理者経営研修」

1. 目的

地域包括ケア時代における看護管理者の役割を果たすうえでの知識を修得し、自らの行動を明確にする。

2. 定員および研修方法

新型コロナウイルス感染症拡大のため、研修はすべてオンラインで実施した。昨年度から引き続き定員 40 名、副看護師長以上の看護職を対象とした。

3. 実施状況

石川県内 45 施設から 81 名の応募があった。1 施設 2 名までの参加とし、45 施設から 65 名が受講した。受講者の看護師経験年数は平均 24.8 年、職位は看護部長（管理者）8 名、看護師長 23 名、副看護師長・主任等 32 名、教員 2 名であった。また施設別の参加人数は、病院 54 名、訪問看護ステーション 6 名、介護系施設 3 名。看護学校 2 名だった。なお研修最終日のシンポジウムは公開講座とし、120 名が参加した。

4. 実施内容

令和 3 年 11 月 19 日、11 月 20 日、12 月 4 日、12 月 11 日に下記の内容で、全て会議ソフト「zoom」による双方向性のオンライン講習とした。オンライン講習の中でグループワークも実施した（表 1）。

表 1-1. 研修日程と内容

日時	研修内容	講師
令和 3 年 11 月 19 日(金)		
10:00～	オリエンテーション 開講式	石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター 教員 池田 富三香 石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター センター長 林 一美
11:00～11:40	石川県の看護の状況	石川県健康福祉部医療対策課 室屋 みゆき
13:00～15:30	地域包括ケア時代における看護管理とリーダーシップ①	石川県立看護大学 特任教授 丸岡 直子
11 月 20 日(土)		
9:00～12:00	地域包括ケア時代における看護管理とリーダーシップ②	石川県立看護大学 特任教授 丸岡 直子
13:00～16:00	組織における倫理的課題	常磐大学 特任教授 吉田 千文
12 月 4 日(土)		
9:00～15:30	データを活用した看護管理 -自部署の看護をデータでみる、看護の質を保證する- 組織の課題達成に向けて -組織分析の意義と手法-	滋賀県看護協会 西村 路子

表 1-2. 研修日程と内容

令和3年12月11日(土)		
9:30~12:00	看護管理上の課題達成にむけた戦略 - 交渉術 -	金沢医科大学病院 キャリア支援センター 課長 高見 知世子
13:30~15:30	【公開講座】シンポジウム With コロナをたくましく生きる創造的看護管理	司会 中西 容子(金沢市立病院 看護部長) 池田富三香 金沢医科大学病院 副院長・看護部長 中村真寿美 石川県立中央病院 看護部長 江藤真由美 JCHO 山手メディカルセンター 看護部長 野村仁美

5. 評価及び今後の課題

1) 受講生のアンケートによる評価

(1) 研修内容の理解と活用 (図 1)

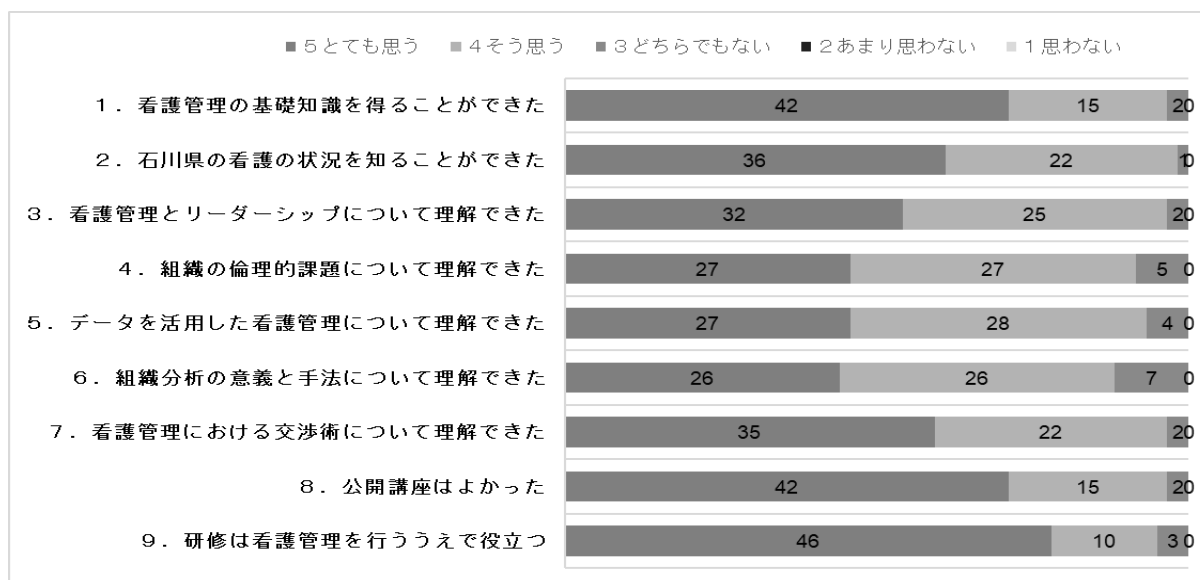


図1. 研修内容の理解と活用

(2) 自由記載より (抜粋)

〈学びの内容〉

- ・副師長として悩んでいる時期であったため、考え方や理論、手法が学べて大変参考になりました。
- ・師長として悩んでいた部分の解決や、課題、不足している部分を見出すことができた。また、もっと知りたい学びたいと思える内容でしたので、今後の自己研鑽に活かしていきたいと思う。
- ・ズーム研修でしかきっと参加できなかったと思います。とても私にとって必要な研修になりました。チームリーダーとして頑張っていきたいです。
- ・看護管理について学習する機会がなく現場にいましたが、今回研修を受け看護管理とは、その役割など学習することができました。質の高い組織・看護サービスを提供できるように管理者だからこそ感じられるやりがいや達成感・喜びを楽しんでいきたいと感じました。
- ・4日間の研修でもやっていたことがスッキリした感じで管理者としてのやる気と更なる野望が生まれました。学んだことを忘れずこれからの管理業務に役立てていこうと思います。

- ・介護施設なので病院とは違うことが多くあります。人をいかにうまく動いてくれるようにできるきっかけを頂いたと思います。
- ・日ごろの現場と講義内容を照らし合わせて考えることができわかりやすかったです。
- ・これまでの、自分の管理的視点や行動を振り返る機会とすることができました。看護管理は大変という思いばかりが大きくなっていましたが、いい面もやりがいも多くあることを知ることができました。大変参考になりました。
- ・リーダーシップや理論、分析、交渉術、公開講座と有意義な時間を過ごすことができました。これからも、先生方に教えていただいたことを日々振り返り、学び実践していきたいと思います。
- ・特に組織分析が参考になりました
- ・データに基づいて伝えていくことの大切さを再認識しました。
- ・後半の管理、経営については今まで興味を持つこともなく、あえて耳をふさいできた分野かもしれません。今まで上司、先輩たちが本講座内容などに携わり管理してきたんだろうなという気持ちになりました。看護学生の教育の中に、看護管理の教育も含まれていると知り、必要なことだなと感じています
- ・理論と結びつけて考えることを教えていただき勉強になりました。

〈今後の研修へのご意見〉

- ・人材育成という観点から、教育に関する内容も入れて下さると助かります。
- ・倫理や交渉術の講義ではお顔を合わせてのグループワークでより学びを深めることができたならよかったですと思いました。グループワークや雑談は大事だなと改めて思いました
- ・zoom であることから他施設の方との情報交換が少ないことが残念でした
- ・来年度は、受講できていない管理者を受講してほしいと思っています。
- ・Web 研修のため受身的になってしまいましたが、講義内容は具体例の提示があり学びやすかったです。

2) 全体的な評価

本事業は平成 27 年～本年度の 7 年にわたり継続している。昨年度から続く新型コロナウイルス感染症拡大を考慮してオンラインですべての研修を計画した。申し込み人数が例年の 2 倍超となり、看護師の研修ニーズの高さを改めて実感した。認定看護管理者教育も徐々に浸透してきているので、昨年度から受講対象者を看護師長以上から、副看護師長（主任等）以上に変更したことも申し込み人数の増加の要因ではないかと考えられた。講義は、管理の基礎を念頭に組み立て、オンラインであってもグループワークやグループ発表を取り入れた演習を行った。また現場で悩んでいるコロナ禍における看護倫理や看護管理について内容に盛り込んだ。

これらのことから、受講生は満足度が高く有意義な事業であったと捉えたと考えられる。



公開講座 研修室から配信の様子

V. 専門的看護実践力研修事業（分野別実践看護師養成研修）「皮膚・排泄ケア」

1. 目的・目標

【目的】

皮膚・排泄ケアに関する専門的知識、技術を身に付け、看護実践力の向上を図る。

【目標】

皮膚・排泄ケアに関する基本を踏まえ、エビデンスのあるケアを実践するための知識と技術を理解する。さらに、自施設におけるスキンケアの管理状況より、解決策を考えることができる。

2. 実施状況

石川県内 30 施設から 42 名が受講した。受講者の所属施設は病院 37 名、訪問看護ステーション 4 名、介護老人保健施設 1 名であった。所属施設の所在地は加賀地区 37 名、能登地区 5 名であった。

3. 実施内容

令和 3 年 11 月 6 日、21 日、23 日、12 月 5 日の計 4 日間、ストーマ・創傷・失禁ケアの 3 分野に関して、オンラインにてグループワークを交えながら実施した（表 1）。

表 1-1. 研修日程と内容

日時	分野	科目・講師
令和 3 年 11 月 6 日（土）		
9：25～9：55		看護の動向について
		石川県健康福祉部 医療対策課 管理・看護グループ主任技師 室屋 みゆき
10：00～10：55	Ostomy	泌尿器ストーマと失禁の管理
		金沢医科大学 氷見市民病院 泌尿器科 教授 森山 学
11：00～11：55	Wound	褥瘡のリスクアセスメント
		福井医療大学 保健医療学部 看護学科 教授 北川 敦子
13：00～13：55	Wound	創傷治癒と DESIGN-R2020
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
14：00～14：55	Wound	褥瘡の外科的・物理的療法
		金沢医科大学 名誉教授 南ヶ丘病院 院長 川上 重彦
15：00～15：55	Ostomy	ストーマケアの基礎
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
11 月 21 日（日）		
9：00～9：55	Ostomy	消化器ストーマと術後管理
		金沢医科大学 一般・消化器外科学 准教授 藤田 秀人
10：00～10：55	Ostomy	ストーマ周囲皮膚障害のスキンケア
		金沢赤十字病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 小西 千枝
11：00～11：55	Ostomy	瘻孔管理
		小川医院 院長 小川 滋彦
13：00～13：55	Wound/ Ostomy	がん薬物療法時のスキンケア
		公立小松大学 保健医療学部 看護学科 教授 松井 優子
14：00～14：55	Wound	スキン-ケア
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
15：00～15：55	Wound	糖尿病のフットケア
		金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大江 真琴

表 1-2. 研修日程と内容

日 時	分 野	科目・講師
令和3年11月23日(火・祝)		
9:00~9:55	Wound	栄養管理とアセスメント
		芳珠記念病院 栄養管理室 管理栄養士 坂下 理香
10:00~10:55	Wound	体圧管理
		久藤総合病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山田 ゆかり
11:00~11:55	Wound	褥瘡のリハビリテーション
		あっとほーむな訪問看護ステーションやまと 理学療法士 神野 俊介
13:00~13:55	Wound	下肢の潰瘍のアセスメントとケア
		石川県済生会金沢病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 細田 夕子
14:00~14:55	Wound	スキンケアとドレッシング材の選択
		JCHO 金沢病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山下 美樹
15:00~15:55	Continence	IAD(失禁関連皮膚炎)とスキンケア
		金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大桑 麻由美
12月5日(日)		
9:00~9:55	Continence	失禁対策
		公立松任石川中央病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 遠藤 瑞穂
10:00~10:55	Wound	MDRPU(医療関連機器圧迫創傷)
		金沢赤十字病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 小西 千枝
11:00~11:55 13:00~13:55	Wound	褥瘡のケア計画
		皮膚・排泄ケア認定看護師 山田 ゆかり、小西 千枝、遠藤 瑞穂、細田 夕子、 紺家 千津子
14:00~14:45	Wound/ Ostomy/ Continence	ICTを活用した創傷ケアの潮流
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子

4. 評価

1) 受講生のアンケートによる評価

受講者42名中40名(95.2%)より回答を得た。

(1) 受講者の背景

受講者の看護師経験年数は平均14.8年、所属施設は300床以上の病院13名、100~299床の病院17名、99床以下の病院5名、訪問看護ステーション4名、介護老人保健施設1名であった。オンラインによる講義やセミナーなどの受講経験者・未経験者ともに20名ずつ(50.0%)であった。

(2) 本研修における受講者の評価 (図1)

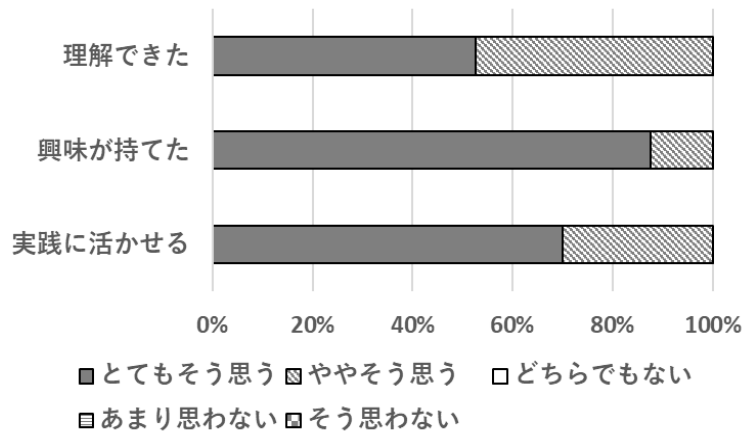


図1 本研修における受講者の評価

(3) オンライン講義の評価 (図2,3)

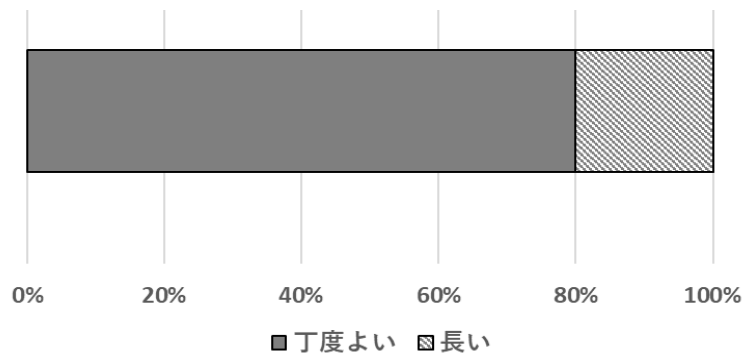


図2 1日におけるオンライン研修時間の適切さ

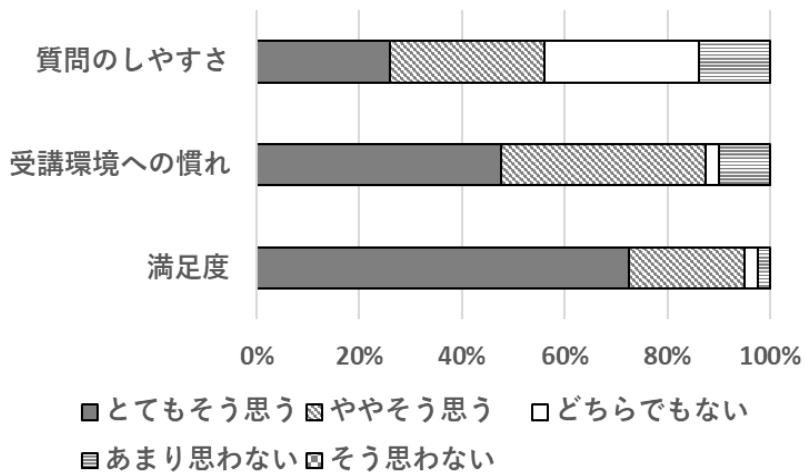


図3 オンライン講義における質問のしやすさ、受講環境への慣れ、満足度

(4) 受講した感想や学び（自由記載より抜粋）

- ・ ストーマ、褥瘡など広い内容を理解することができた。
- ・ 他のスタッフにもアウトプットして、学んだことを実践したい。
- ・ 普段のケアでわからないことや、これでよいのかと迷い思いながらやっていることも多いが、今回の研修でアセスメントやケアの方法を学ぶことができ、実践に活かしたいと思う。
- ・ 色々な先生方に講義をして頂き、とても勉強になった。少しでも患者さんが楽に過ごせるように日々のケアに活かしていきたい。まずは自分がしっかりと復習し、病棟全体に伝えたい。
- ・ 自分たちが日ごろやっているケアを振り返り、根拠を知ることができた。自分の病院の強みや弱みについても考えることができた。
- ・ ケア選択の幅が広がった。
- ・ 4日間は長いかなと思ったが、講義のテンポもよくあっという間で楽しかった。研修を思い出して一つずつ出来ることを増やしていきたい。

2) 全体的な評価と課題

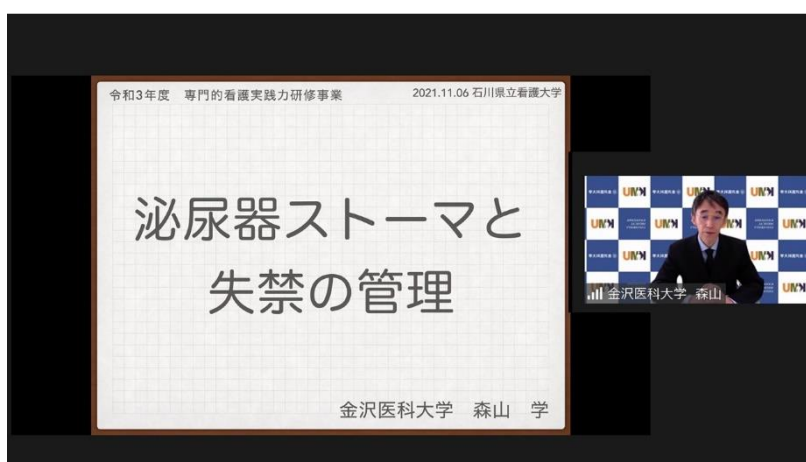
受講生 42 名のうち、41 名が 8 割以上を受講し修了認定証が交付された。

本研修は、今年度で 3 回目を迎えた。コロナ禍の状況を鑑み、昨年度に引き続きオンライン研修とした。受講希望者の方々はオンライン研修の参加への慣れが想定できたが、初めてのオンライン研修への参加者を想定し、研修日程とは別日にオリエンテーションを行った。

参加方法などについては、事前に資料を送付し、発言方法、出席の取り方などの操作が可能かを確認した。また、参加者一人ずつが、自己紹介とこの研修会に参加した理由や学びたいことなどを話していただき、受講者同士も話しやすいよう配慮した。大きな通信トラブルは無く、全日程予定通り開催ができた。

研修にあたっては、講師の協力を得て事前に講義資料を一冊のテキストとして配布した。また、演習も受講者個々が行えるよう演習用品も送付し、講義中にその用品を手にとってもらいながら実施した。その結果、本研修の理解・興味・実践への活用の評価において、「とても思う」と「そう思う」を併せて 100%であったことから、充実した学びが得られ、昨年度に引き続き満足度は高かった。

次年度は、これまでに得たオンライン研修での知見を踏まえ、受講生の学修のニーズを満たし、かつ最新の知見等も組み込みながら開催したいと考えている。



研修の様子(金沢医科大学氷見市民病院・森山教授によるオンライン講義)

VI 感染管理看護実践力向上研修

1. 目的・目標

【目的】

感染管理について専門的看護実践能力を身につけ、感染防止対策の中心的な役割を担うことができる看護師を育成する。

【目標】

- 1) 感染管理における病院の役割と機能及びシステムについて理解する。
- 2) 感染管理に必要な感染症と抗菌薬、および微生物と微生物検査について知る。
- 3) 病院感染対策の基本をふまえ、エビデンスのある感染防止技術を理解する。
- 4) 自施設の感染管理上の問題を明らかにし、改善への課題と対策を検討する。

2. 実施状況

石川県内 53 施設から 67 名が受講した。受講者の所属施設は、病院 52 名、訪問看護ステーション 5 名、介護老人施設 10 名であった。

3. 実施内容

令和 3 年 6 月 3 日、4 日、11 日、12 日の計 4 日間、グループワークを交えながら、zoom（遠隔会議システム）を使用したオンライン研修を実施した（表 1）。

表 1-1. 研修日程と内容

令和 3 年度 感染管理看護実践力向上研修				
開催日	時間	テーマ	内 容	担 当(敬称略)
第 1 日 6 月 3 日(木) 「zoom」による オンライン 研修	9:00 ～ 9:50	オリエンテーション	受講方法 オリエンテーション Zoom の活用方法	看護キャリア支援センター 教員 池田富三香
	9:50 ～ 10:00	開講式	開講式のあいさつ	看護キャリア支援センター センター長 林 一美
	10:00 ～ 10:50	看護の動向と看護政策	看護の動向と我が国の看護政策について	石川県健康福祉部 医療対策課 室屋みゆき
	11:00 ～ 11:50	感染管理における施設の役割	我が国における感染管理 病院感染管理組織とシステム 感染管理推進のための方策	看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 江波 麻貴
	13:00 ～ 15:40	病院感染管理における ICT の役割と機能	①ICD の立場から ②薬剤師の立場から ③細菌検査技師の立場から ④感染管理認定看護師及びリ ンクナースの立場から	金沢医科大学病院 感染対策チーム 医師 飯沼 由嗣 薬剤師 多賀 允俊 細菌検査師 河村 佳江 感染管理認定看護師 野田 洋子

表 1-2. 研修日程と内容

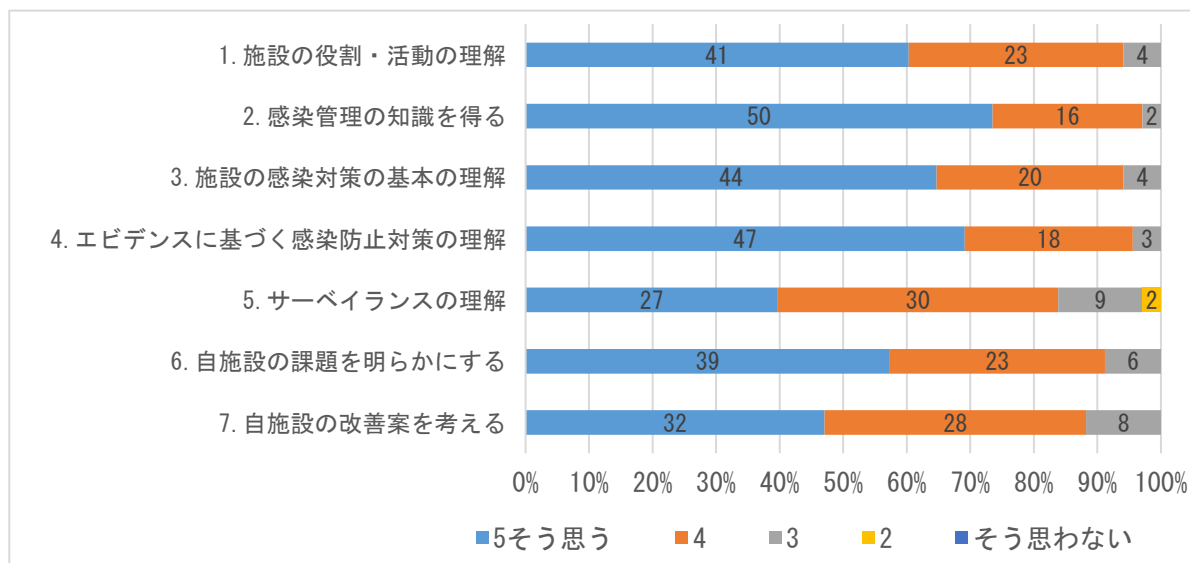
開催日	時間	テーマ	内 容	担 当(敬称略)
第 1 日 6月3日(木) 「zoom」による オンライン 研修	15:50 ～ 16:30 GW	自施設の感染管理組織 とシステム (グループワーク)	①自施設の感染管理組織とシステムを把握し、他施設の状況も知る。 ②自施設の問題点を抽出できる	演習支援メンバー： ○江波 麻貴、北川 洋子、 池田富三香、野田 洋子
第 2 日 6月4日(金) 「zoom」による オンライン 研修	9:00 ～ 9:45	感染防止技術の基本	標準予防策と経路別予防策	看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 江波 麻貴
	9:55 ～ 10:55	感染管理に活かす微生物学の知識	微生物の基礎的知識 感染管理上重要な病原微生物の種類と特徴 微生物検査	石川県立高松病院 ICMT 新川 晶子
	11:05 ～ 12:05	職業感染防止対策	針刺し、切創、血流体液曝露対策 流行性感染症対策	看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 北川 洋子
	13:00 ～ 14:30	感染防止対策の実際	看護ケアにおける感染防止 洗浄消毒滅菌と環境管理	看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 江波 麻貴
	14:40 ～ 16:10	感染管理に活かす感染症学の知識	感染症のメカニズム 市中感染と医療関連感染 感染症診断の基本的プロセス・抗菌薬の使用と選択基準	金沢医科大学病院 ICD 飯沼 由嗣
第 3 日 6月11日 (金) 「zoom」による オンライン 研修	9:00 ～ 10:00	医療器具・処置関連感染防止対策①	尿路感染防止対策 血流感染防止対策	看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 北川 洋子
	10:00 ～ 10:30	医療器具・処置関連感染防止対策②	医療関連肺炎防止対策	石川県立中央病院 感染管理認定看護師 松沢 麻里
	10:40 ～ 11:30	医療器具・処置関連感染防止対策③	手術部位感染防止対策	金沢医科大学病院 感染管理認定看護師 日向千恵子

表 1-3. 研修日程と内容

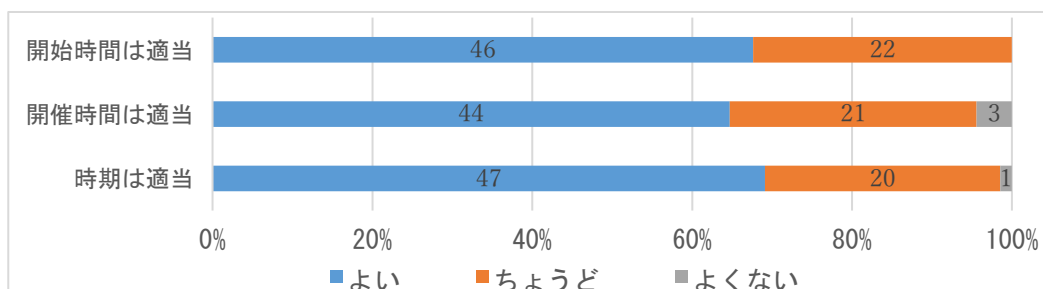
開催日	時間	テーマ	内 容	担 当(敬称略)
第 3 日 6 月 11 日 (金) 「zoom」に よる オンライン 研修	12:30 ～ 13:50 講義	病院感染防止対策	アウトブレイク対策について	石川県立中央病院 感染管理認定看護師 松沢 麻里
	14:00 ～ 16:30 GW	病院感染防止対策演習	病院感染事例の対策について 演習問題をグループワーク	演習支援メンバー： ○北川洋子 江波 麻貴 松澤麻里 日向千恵子
第 4 日 6 月 12 日 (土) 「Zoom」に よる オンライン 研修	9:00 ～ 10:00 講義	医療関連感染サーベイ ランス概論	サーベイランスとは サーベイランス種類と方法 感染率・使用比の算出とベン チマーク サーベイランスデータ活用	看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師教 育課程 専任教員 江波 麻貴
	10:00 ～ 12:00 GW	自施設の感染管理 改 善計画作成①	自施設の感染管理上の問題点 を明確化し 改善計画を立案する	演習支援メンバー： ○江波麻貴 北川 洋子 池田富三香 松沢 麻里 日向千恵子 池田 恵子 嶋田由美子 鍛冶 佳美
	13:00 ～ 16:00 GW	自施設の感染管理 改 善計画作成②	グループで一つの改善課題を 選定し計画を立案する	
	16:00 ～ 16:20	閉講式	閉講のあいさつ 修了証書授与	看護キャリア支援センター センター長 林 一美

4. 評価

1) 研修内容の理解について



2) 開催時期や時間について



3) 感想、意見、要望 (一部抜粋)

- ・多職種からの視点で感染対策について学ぶことができました。他施設のことにも参考にしていきたいと思えます。
- ・GW を行うことで他の施設の状況も知ることもできて勉強になった。
- ・感染に関する知識を再学習できて、よかったです。
- ・グループワークでのパソコン操作が難しかったです。
- ・とてもわかりやすい研修でした。4 日間があつという間でした。またこのような研修を開催していただきたいと思いました。
- ・感染に関する知識を深め、また他施設の現状や問題点を知ることが出来、今後の活動の参考になりました。
- ・具体的な感染対策や、日常臨床場面での実際の疑問などにも詳しく返答がありわかりやすかったです。
- ・グループワークで立案・計画を一緒に考えることができてよかったです。自分の病院でもいかせるようにしたいと思いました。
- ・今まで漠然としていた感染対策について、根拠が理解できたので、今後は自信をもって感染対策が行えるし、他のスタッフにも伝えらえると思います。
- ・対面でなかったのは感染対策上は安心であったが直接会うことができず少し残念面もあった。
- ・勉強する機会をもてて良かった。また企画してほしい。
- ・今回、すべて zoom のオンライン研修ということで、どのようにグループワークをするのか不安だったのですが、グループ内で活発な意見交換ができたので良かったです。
- ・自分の病院のことしか分からなかったのですが、他の病院の現状を知ることができたり、講義を聞く中で自分の病院の現状と比較することができよかったです。
- ・自施設でも勉強会開いて正しい知識を伝達していきたいと思えます。
- ・自分だけでなく自施設のいろんな人に参加してほしいと思えました。
- ・最初は難しいなと思ったのですが、どんどん楽しくなってきました。自分がしていた事が正しいと再確認できる事もあれば、もう少し改善が必要だなと気付く事ができました。またグループワークでは、他の病院の事も聞けて、自分の病院との違いや取り入れたい事が出来ました。明日からの勤務で計画を立てた事を実践していこうと思えます。
- ・zoom 研修になれない人の集団だとなかなか司会・記録も決められず苦労しました。
- ・zoom での研修だったので、チャットを使った質問ができて良かった。(チャットの方が質問しやすいと感じた) 会場まで行かなくて良かったので時間の節約が出来て良かった。
- ・チャットに上がった質問事項と回答をまとめて確認できれば良かったかなと思えます。
- ・各グループの記載された改善計画書が見られるとよいかとも思えます。

Ⅶ. 石川県看護教員現任研修

「With コロナ時代にいかに学生が自己学習能力を育むか」をテーマに、カリキュラム改正に向けて教育方法を開発することを焦点に企画・実施した。

1. 目的・目標

【目的】

With コロナ時代に学生が自己学習能力を育む教育方法を考えられることを目的とする。

【目標】

- 1) ハイブリッド型授業およびオンライン授業における学生の能動的学習活動を考える。
- 2) 多職連携教育によって、学び得られる内容を考える。
- 3) カリキュラム改正における地域・在宅看護論・在宅看護論実習、臨床推論の教育方法を考える。

2. 実施状況

研修日時	6/5	6/19	9/4	10/16
研修者数	48名	45名	57名	67名

3. 実施内容

表 1-1. 研修テーマと講師

【教育方法の開発】

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催方法
6/5 (土)	10:00 ~ 12:00	アクティブラーニング型 授業設計と実践	石川県立大学 教授 小椋 賢治	zoom
	13:00 ~ 15:00	ハイブリッド型授業の分類と特徴 オンライン授業の実際 ジクソ法ポスターツアーなど	司会： 石川県立看護大学 准教授 石川 倫子	
6/19 (土)	10:00 ~ 12:00	看護学生の汎用性能力を いかに育成するか	石川県立大学 教授 澤田 忠幸 司会： 石川県立看護大学 教授 垣花 渉	zoom
	13:00 ~ 15:00	多職連携教育の実際 －看護専門学校と薬学部－	大阪南医療センター 附属大阪南看護学校 藤尾 康子 司会： 金沢医療センター附属 金沢看護学校 副学校長 西村 民子	

表 1-2. 研修テーマと講師

【教育方法の開発】

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催方法
9/4 (土)	10:00 ~ 12:00	看護師に求められる臨床推論とその教育方法 —JNP (診療看護師) の教育に関わった立場から—	大分県立看護科学大学 教授 藤内 美保 司会： 石川県立看護大学 准教授 石川 倫子	zoom

【指定規則の理解と実際】

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催方法
10/16 (土)	10:00 ~ 12:00	時代を見据えた 柔軟なカリキュラムの開発 —第5次指定規則改正内容とその意図—	石川県立看護大学 准教授 石川 倫子 桜井志保美 (在宅) 司会： 浅ノ川学園 金沢看護 専門学校 山口 恵子	zoom
	13:00 ~ 15:00	【シンポジウム】 地域・在宅看護論・在宅看護論実習に 求められる内容と方法	<シンポジスト> 金沢医療センター附属 金沢看護学校 教員 坂本 泰子 石川県立総合看護専門 学校 教員 網本 絹代 公立小松大学 教授 徳田真由美 <座長> 石川県立総合看護専門 学校 副学校長 越野まゆみ 石川県立看護大学 准教授 桜井志保美	zoom

4. 評価

【受講者の学び（一部）】

- ・自分は意外にアクティブラーニングの設計ができていると振り返られたので、少し自信になった。反転授業を取り入れながら、対面の時間を有効に使えるように授業を考えていきたい。
- ・安心な場づくりやファシリテーター、反転授業について実践の参考になった。
- ・今年度から新任教員として看護教育に携わることになり、現在初めての授業に向けて授業設計を行っている最中であり、学生が主体であることを改めて自覚し、授業の組み立て方を考えるうえでとても参考になった。ぜひ活用したい。
- ・オンラインでの授業でも、使用するツールや方法を考えると、対面に近い授業内容にすることも可能だということがわかった。これからは、授業目標や目的に沿った授業内容を考えるだけでなく、対面と遠隔のメリット、デメリットも考慮した授業内容を考えていく必要があると思った。
- ・学生が安心できる環境を作れるように工夫していきたい。
- ・シンクペアシェア、ワールドカフェ、ジグソーポスターツアーを取り入れ、お互いに学び合うこと、楽しく学ぶことができる場を作ることに取り組みたい。
- ・このコロナ禍により教育方法を見直す機会となっている。基礎教育でどのような学び方をした新人看護職員が入職するのかを理解する上で参考になった。
- ・自己の授業内での活用、カリキュラム構築における系統的な能力育成や教育内容の明確化に役立てたい。
- ・多職種連携教育に向けて、どのように活動したらよいか考える機会となった。
- ・臨床判断と看護過程がどう違うのか、今までわからなかったが、講義・解説で分かった。今までの教育に加え、臨床判断を強化して教育することの意味が初めて分かったように思う。
- ・タナーの臨床判断モデルはよく聞くが、解釈モデルについて初めて知った。対象者の経験世界に関心を持つことから始まるのだと思った。こういう姿勢を学生に身につけていてもらいたいと感じた。
- ・改正カリキュラムの内容が明確になり、現行カリキュラムでの実習指導の実際での内容の強化、改善点を考えることができた。
- ・基礎教育のカリキュラムを理解することで、新人看護職員への研修等の参考になった。自施設の役割や地域住民の特徴が理解できるような研修を企画したい。
- ・多様な場で看護できる人材育成のために、実習の場を広げる必要性を感じ、その準備のありかたを考えさせられた。
- ・地域・在宅看護論がまさにこれからの時代に重要な役割をもつ科目となっていく。学生に何をどう学ばせるのかをディスカッションを重ねてきた。自分たちが地域や地域で生活する人をどう捉えているのか共通認識し、地域で生活する人とその家族を丸ごと支えていくことのできる学生を育てたいと改めて思った。

【全体評価】

自己学習能力を育む教育方法に関して研修を構築し、それぞれの立場で考える機会になったと考える。研修では、互いの知恵から学び合うことができ、目標は達成できたと考える。

5. 今後の課題

Covid-19 感染症の感染拡大による実習への制限はいまだ続いている。そのため、看護教員は少ない実習体験を学生自らが意味づけられる教育方法を身につける必要がある。また、看護基礎教育と臨床現場がお互いの現状や課題を話し、Covid-19 感染症の感染拡大によって起きている課題を解決できる糸口を見つけられる場をつくっていく必要がある。

VII. 地域貢献

1. 各機関からの依頼による派遣事業

氏名	テーマ	主催者名	場所・機関	年月（西暦）
北川 洋子	講義：在宅看護で求められる新型コロナウイルスの感染対策	石川県医療在宅ケア事業団	石川県立看護大学（オンライン）	2021. 5. 19
北川 洋子	講義：高齢者施設・在宅での感染防止対策	富山県院内感染対策協議会	富山県医師会館	2021. 11. 20
北川 洋子	講義：在宅における感染対策	富山県立看護大学看護学部 在宅看護学講座	富山県立大学 外山キャンパス	2021. 12. 22
北川 洋子	講義：地域連携で取り組む感染予防対策	射水市民病院	石川県立看護大学（オンライン）	2022. 1. 28
池田富三香	講義：認定看護管理者教育課程 ファーストレベル 人材育成の基礎知識	石川県看護協会	石川県看護協会	2022. 11. 16